

## 「新興国アントレプレナーシップ」プログラム (QBEP) ー開発途上国での体験学習をもとにしたイノベーション人材育成の試みー (九州大学/ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター (QREC) 講義)

担当：産学連携センター教授 谷川徹 連絡先：[tanigawa@qrec.kyushu-u.ac.jp](mailto:tanigawa@qrec.kyushu-u.ac.jp)  
問合せ：QREC プログラムマネージャー 山田裕美 連絡先：[yamada@qrec.kyushu-u.ac.jp](mailto:yamada@qrec.kyushu-u.ac.jp)  
住所：福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 産学連携棟I TEL:092-642-4013 FAX:092-642-4015

### ◆ 概要

チャレンジ意識(アントレプレナーシップ)醸成と、課題発見から新たな価値創造・提案に至る手法(デザイン思考)修得等を目指した、バングラデシュの農村での1週間の体験学習を含むイノベーション人材教育プログラム(正規授業)。九州大学の学生20人を対象に2013年度前期に開講。同様のプログラムは、米国のマサチューセッツ工科大学(MIT)やスタンフォード大学で実施されていますし、我が国でも幾つかの大学が同様のプログラムを実施していますが、一大学単独での自主プログラムは我国初です。

### ◆ 背景

世界には、水、医療、農工具等、最低限の生活必需品にアクセスできず貧困に苦しむ人が大勢存在していますが、このような開発途上国・地域に住む人々(Base of Pyramid: 通称BOP)のニーズは、先進国で使われる製品やサービスと異なります。すなわちBOPでは、先進国の技術やサービスをそのまま適用するのではなく、BOPのニーズをよく把握して製品設計やサービスに生かすことが重要です。また、BOP人口は世界人口約56億人のうち約7割を占めると言われ、かつ著しく成長しています。従って、その市場は世界の多くの企業が注目しているところです。最先端の技術やビジネスを学ぶ九州大学の学生に対し、途上国現地の実情に触れ、途上国対応の新たな製品やサービス開発を検討提案するプロセスを学習・体験させることは、QRECの目指す多様なニーズに対応できるイノベーション人材育成の観点から極めて重要であるため、本教育プログラムを開始しました。

### ◆ 内容

本プログラムは、九州大学の全学部から希望者を募り、20人の学生を選抜、我が国でBOP課題解決のための適正技術開発プロジェクトを実施している団体See-Dと、アジアの開発途上国バングラデシュを基盤にBOPの課題解決と新ビジネス開発・普及を推進している、グラミンググループのサポートを受け実施しました。イノベーション創造手法として評価の高いデザイン思考の手法を活用し、2013年6月末から9月まで、福岡で4回のワークショップとバングラデシュ農村での約1週間の現地フィールドワークを行い、最終日には、学生4グループによる提案発表会を行いました。

### ◆ 効果

目指す効果は九州大学からイノベーション人材を輩出することですが、具体的には以下の4点です。  
BOP問題の現状観察をきっかけに、課題解決にチャレンジする意欲(アントレプレナーシップ)を喚起する。  
BOPの課題解決を事例とし、具体的な価値創造と提案に至るプロセス手法(デザイン思考)を学ぶ。  
BOP市場における適正技術・サービスの検討から、社会における技術のあり方を考えさせる。  
BOP問題の本質理解とその解決に向けたありかたを理解し学習する。

### ◆ 今後の展開

社会における課題発見と、それを解決するための価値創造の手法たるデザイン思考は、QRECの行うアントレプレナーシップ教育にとって基盤的な要素であり、またBOP分野は、アントレプレナーシップ教育を行う場として格好の場です。今後もバングラデシュ以外の他の途上国も含め本プログラムを継続するとともに、提案されたプロジェクトの実現に向けフォローアップして行く予定です。

